

第4回全国手をつなぐ育成会連合会 全国北海道大会のご報告

平成29年9月23日(土)、24日(日)の両日に亘り、第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会北海道大会が札幌市で開かれ、約2200名が参加し、兄弟及び参加の職員を含め、県から参加の職員を含め、全国各地から約2200名が参加し、有意義な大会となりました。一般部門の大会となりました。自信と誇りをもつて生きる社会！会を共にし、一歩一歩と前進しよう！切に、仲間たちとつながろう！の本人大会スローガンの下、支援・教育(子ども・家族)「働く(雇用)」、「暮らす」、「育成会運動」の6つの大きなテーマが行われました。事業所・施設・学校・職場・家庭・地域・社会など、様々な分野で活動している方々、県・市町村・関係機関など、様々な分野で活動している方々、おとよびの発表を行いました。

大会スローガン

今こそ創ろう！自信と誇りをもって生きる社会を共に！

手をつなぐ・うちな
知的な障がいのある人と共に

県育成会のHPにも掲載中



羊ヶ丘



赤レンガ

発行所
沖縄県手をつなぐ育成会
那覇市首里石嶺町4-373-1
沖縄県総合福祉センター内
TEL 098 - 882 -5727
FAX 098 - 882 -5720
E-mail: oki-iku@woody.ocn.ne.jp
HP: http://www.oki-iku.com/
発行人 理事長 田中寛
定価 50円(会費を含む)

【目次】

- P1 全国北海道大会のご報告
- P2 北海道大会参加者感想
- P3 虐待防止研修・理事通信
- P4 理事長予定・ゆんたく広場他

第4回全国手をつなぐ育成会連合会・北海道大会にて県育成会理事の保良榮長氏が大会長表彰を受賞されました。

保良氏は、娘さんの幼児期から障がい児保育の運動に取り組み、小・中・高校のPTA活動、その後県育成会活動に参加されてきました。

平成16年に沖縄県で開催された第53回手をつなぐ育成会全国大会沖縄大会では、事務局長として大会運営に携わりました。その後も、県育成会副会長、理事としても長年にわたる活動の中心的な行動の功績が認められ、今回の表彰となりました。おめでとうございます。



表彰状



第2分科会
「働く」に参加して

ワークプラザ南風保護者会
下地 幸



障がい者の一般就労は困難ではと思ひ、今回の分科会に参加しました。北海道では、法定雇用率も高く定着率も高いと聞いて、安心しました。その中でも「はまなす食品」さんは、従業員数75名に対し、障がい者29名を雇用し、雇用率の高さがわかりました。

「はまなす食品」は、納豆生産と包装事業を行う会社です。納豆生産と聞いて、衛生面はどうだろうと思っていたところ、それはしっかりと指導されており、食品衛生優良表彰など受けており、高く評価されていました。

安心で安全な商品開発に取り組みなから、障がい者の自立をサポートし、会社では3人のパートの方がジョブコーチをしており、心強い支援者がいて、就職の定着にも繋がっているんだなあと感じました。

障がい者たちの周りが生き生きと楽しい場がありますように。

第4回全国大会北海道札幌大会感想



第3分科会 「通う」に参加して

障がい者支援センターぴゅあ
前田 健斗



今回は、「通う」というテーマで、利用者さんだけでなく、ご家族の立場、

事業所の立場、職員の立場と、いろいろな視点で考えて討議されていて、非常に勉強になりました。特に参考になったのが、ご家族の方と、事業所との関わり方です。事業所の要望や、ご家族の要望が多々、ぶつかる時があるのですが、ただ理解したり、理解を促したりするのはなく、普段からご家族と積極的に関わったり、意見を交換したりすることで、解決することができるとお聞きして、事業所の職員みんなにも伝えていこうと思いましたが、今回の大会も非常に学びが多く、大変勉強になりました。



第4分科会 「暮らす」に参加して

障害者支援事業所ゆいまーる
上園 香織



障がい者のある方が地域で安心して生活していくために、少なくとも3つのサポート

「生活支援」「活動支援」「余暇支援」が必要である。それらを組み合わせると一人一人の支援内容が決定していく。サービス利用計画は「本人の心」の動きと共に変化していく。いつでも「後追い」することが支援者の仕事であり、こちらが動向を決めたら、おしまいである。

ゆるやかな自己（意思）決定に寄り添って支援を行うことで「暮らし」ではなく「暮らす」ことができるのだ。

私も本人らしく「暮らす」を手助けとなれるよう、本人が心を動かすのを見逃さないように、これからも支援を続けていきたい。



第5分科会 「高齢」に参加して

てだこ学園保護者会
又吉 悦子



私は「てだこ学園保護者」として第5分科会「高齢」に参加しました。

・65歳問題について
・介護保険と障害者総合支援法
・65歳までに現れる高齢症状について
・親も高齢、子も高齢をどう支えるか
・高齢、親なき後の暮らしについて
・歳を重ねても地域で暮らすために

私は自分の生活のために働かなくてはいけない立場にありながら、母の介護と来年還暦を迎える妹の支援の全てを一人でやっています。自分も高齢になる中、日本中高齢化社会を迎える中、すべての課題は急務を要すると思っています。私たちは今を学び、これから来る未来をより良い制度にする為に、私たち家族が声をあげて一つ一つ改善していかなければ「差別や偏見がなく、助け合い、支え合う地域」はやって来ないと思います。一人一人の力は小さいです。でも全国の人が集まれば大きな力になります。そのためには「手をつなぐ育成会連合会」を通して、私たちは一致団結して共に行動することが大切だと学びました。



第6分科会 「権利擁護」に参加して

ゆいの郷保護者会
渡名喜 恵子



基調講演は毎日新聞の野沢氏の講和で「障害のある人が一人ですべてに大きな

影響を与えることは難しいかもしれないが、本人の家族のサポートしてくれる人々を通して色々な影響を發揮していることを大切にしてほしい」と話されていたことがとても印象に残りました。

今大会で出会った方々と色々なお話をさせてもらうなかで、皆さんの熱心さや一生懸命さを感じ、勇気づけられとても心が温かい気持ちになりました。

家族会を通して心配事や不安を持つ家族同士の繋がりができ、情報を交換したり悩みを分かち合い、時には愚痴を言い合えるくらいの相手がいることは家族の強みになると思います。一人の小さい力でも、家族会の方々と手と手をつなぐと大きな力になり心から思うことができ、特に絆の強さを感じました。

平成29年度沖縄県障害者虐待防止・権利擁護研修



共通コース



市町村虐待防止担当職員コース



設置者・管理者コース



福祉施設従事者コース

沖縄県の事業委託により県手をつなぐ育成会が主管となり10月16日（月）に県総合福祉センターにて、「平成29年度沖縄県障害者虐待防止・権利擁護研修」を開催しました。

この研修は、障害者虐待への理解を促進し、障がい者虐待の防止、権利擁護を図る為、障害者福祉施設や市町村職員などを対象に、障がい者虐待防止の趣旨、虐待防止に係るスキーム、障害者福祉施設における虐待防止のための組織・運営体制づくり、利用者の意向に沿った支援のスキル等について研修し、障がい者の虐待防止、早期発見に向けた取り組みの推進を目的として、厚生労働省指導者養成研修の伝達研修であります。

昨年同様に今回も研修対象人数を超える多数の申し込みにより、福祉施設従事者153名、管理者・設置者100名、市町村虐待防止担当職員52名の総計251名が10月に受講し、来年1月10日（水）に生活支援員など福祉従事者100名が受講いたします。

自分の仕事と生活、趣味や付き合いに追われ子供の成長・教育を親任せ、学校任せにしていたことは親のずるさと怠慢だったのではないだろうか。そのようなことを思いながら今日も娘を作業所・グループホームに送り出している。

娘は未だに平仮名しか書けず、二桁以上の計算やお金の計算もままならず、家事や仕事も自立できない状況である。この状況は、生まれた時から子供に寄り添い、時間と知識を学んで、真剣に仕上げや教育をしておけば、もっと社会的に自立するように育ったのではないだろうか」と悔やまれる。

生活している。共働きの私たちは、生まれてから祖母にあたる妻の親に育児を任せ、保育所、特殊学級、高等養護学校、作業所と歩んできた。保健所の正誤とか月検診で障がいがあると言われて、当時は受け入れなかった公立保育所への障がい児入所運動、障がい児学級や学校でのPTA活動、さらに育成会活動には今日まで20年以上にわたり携わってきた。そのことが表彰されて、去った10月の北海道で行われた第4回全国手をつなぐ育成会連合大会で大会長表彰の栄に与った。有難く名誉なことであるが果たしてそれに値するのか心細い限りである。



― 親のずるさと怠慢 ―

全国大会長表彰に思う

保良榮長理事

理事通信

昭和46年生の娘は、46歳になり、就労支援B型の作業所に通い、最近から同施設の関連のグループホームで週5日生活している。共働きの私た

